

朝日出版社の M&A に関する声明文

朝日出版社の M&A の件が、ニュースで報じられております。

同社は 1962 年の設立より今日に至るまで、その出版事業において、日本の文化振興や学術の発展においてリーダー的な役割を果たされてきました。その射程は文学、芸術、自然科学、ビジネス等のあらゆる分野に及び、最近では電子書籍の刊行にも熱を入れておられます。

それらの中でも特筆すべきは、外国語教育への貢献です。長年の経験に裏打ちされた編集のスキルにより、学習者や教員に配慮の行き届いた教科書、参考書、語学雑誌を多数刊行されてきました。日本人の外国語学習者で、朝日出版社の出版物のお世話にならなかった人は一人もいないのではないのでしょうか？

また、英語以外の外国語にも目配りが行き届いており、大学や高等学校で朝日出版社の教科書を使ったことのないフランス語教員はおられないはずです。同社の 2025 年度のフランス語カタログに掲載されたフランス語関係の教科書の数はおよそ 160 点にも及んでいます。

これら全ては、社風の基盤に異文化理解への貢献と社会的責任に対する強い使命感があってこそ、維持され発展されてきたものです。

今回のニュース報道を受けて、外国語関係の教員、研究者は皆さん心を痛め、強い危惧を感じております。すでに複数の学協会から、支援の声明もあがっております。

われわれ日本フランス語学会の会員は、朝日出版社の出版事業の継続と益々の発展を切に望むものです。

2025 年 1 月 6 日 日本フランス語学会有志一同

(アルファベット順) 阿部宏、芦野文武、春木仁孝、石野好一、市川雅己、井口容子、泉邦寿、甲斐基文、金子真、川口順二、川島浩一郎、木田剛、古賀健太郎、近藤野里、三藤博、小熊和郎、小田涼、小澤南海、Baptiste PUYO、佐野敦至、Simon TUCHAIS、杉山香織、須藤佳子、高垣由美、高橋克欣、武本雅嗣、渡邊淳也、山本大地